

## 特集 看護の心 にふれた旅

—高松東病院を訪れて—

6月30日から1泊2日で、香川県高松市にある国立高松東病院へ施設見学に行ってきました。結核や神経節難病患者の受け入れ拠点とされる高松東病院は、市内から車で30分の緑豊かな高台にあります。

今回の目的は、特殊疾患病棟における「看護や複数の人工呼吸器管理」「入浴やコミュニケーションなどの日常ケア」「医療器具の使用状況」を見学することでした。

特殊疾患病棟は3病棟あり、患者総数は150名で、筋萎縮性側索硬化症など難病疾患の患者さんが入院されています。68名の患者さんが呼吸器を装着されているため、各病室に呼吸器が配置されているのですが、確実な吸引手技と体位交換ことの呼吸器チェックにより、アラームが鳴ることはなく、病棟は非常に静かでした。湯船につかっている入浴は、浴場の至



永松容子 師長



るところに呼吸器が配置されており、職員の方々による調和のとれた呼吸器管理とスムーズな動きとで安全かつ安楽に行われていました。(見学時は喝水のため、シャワー浴でした。)

主なコミュニケーション手段としては、部屋の随所に配置された対面透明文字盤(コミュニケーションボード)が使用されています。また、パソコンも取り入れられており、患者さんとのコミュニケーションをとることも大事にしていることが分かりました。

今回の施設見学を通して、看護において一番大切なものは「看護する心ではないか」と改めて感じました。同時に、機器管理はもちろんのこと、業務内容

コミュニケーション方法・食事・排泄に至るまで、患者さんの生活の質(Quality of Life)をいかにあげていくかを真剣に考え、取り組みなければならぬと思います。

「自分が受けた看護を患者さんに！」を目標に、特殊疾患病棟としての2年目は、更に一歩前進できるよう努力していきたいと思えます。

### 高松東病院 廣瀬看護師長のコメント

「生きていて良かったこと 思ってもらえる看護を」

呼吸器は各病棟で保有限界台数を超えています。入院してから呼吸器を装着する患者さんがほとんどで、それを阻止することも拒むこともできません。私たちは、ケアの一つひとつを丁寧に行うことで、呼吸器のアラームに振り回されない業務を心掛けています。

1回のコールに費やす時間は平均20分。(コミュニケーションボードを使用しての会話では、このくらいの時間が必要です。)じっくりと患者さんの話を耳を傾け、意志の疎通を図ることで、患者さんのストレスを軽減するよう努力しています。

### 特殊疾患とは?

主として長期にわたり療養が必要な脳血管障害、脊髄損傷等の重度障害、神経難病(パーキンソン病など)、重度の意識障害を指します。

在宅での自立生活を目指した機能強化を目標に、リハビリを頑張っています。

動力であるといえます。



## 通所リハビリテーション日記

### リハビリの原動力

通所リハビリテーションの「リハビリテーション」とは、「障害があっても、人間らしく生活することを援助するすべての活動のことです。つまり、「生活の質(QOL)」を保ちながら、残存能力を活用して社会生活を営めるようにすることなのです。

通所リハビリテーションでは、心身に障害のある方々に対し、その障害を可能な限り回復させるとともに、残された機能を最大限に活用し、よ

り自立した社会生活を送れるよう援助しています。

利用者の皆さんは、リハビリにより「痛みが少なくなった」「病気をしからず生活できるようになった」など、とても嬉しそうに報告してくれます。「他の人の手を借りることなく、何でも自分でできるようなりたい」「自分でできることは自分でしたい」という気持ち

ちはリハビリを進めていく上での原

### 病棟紹介 介護病棟

## その方らしさを大切に

私たち介護病棟(患者数30名)では、患者さんにその方らしい生活を送っていただくことを目指しています。四季折々の季節感を大切にしたり、レクリエーションなどを計画し、患者の皆さんに楽しんでいただけるように、スタッフ一同頑張っています。

最近開催された夏祭りでは、神輿や小倉祇園太鼓に瞳を輝かせている方、大正琴の音色にうっとり聞き入る方など、日頃とは違う患者さんの一面垣間見ることができました。

その反面、「介護疲れ」「夫婦共に高齢」という深刻な問題も介護とは切り離せないのが現実です。こうした問題を緩和することができているのが、「ショートステイ」というサービスです。介護病棟にもこのサービスを利用して、短期入院される方が増加しています。介護する側も受ける側も、時には休息することが必要なのではないでしょうか。私たちは、そのような方々のお力に少しでもなればと考えています。

これからも、スタッフ全員でチームワークと明るさをモットーに、「あさひ松本病院」に入院して本当に良かったと言ってもらえるように努力していきます。



## トピックス 昼食バイキングの開催

〜五感で味わうということ〜

長い間入院している患者さんは、とかく今日が何の日であるか分からなくなるものです。単調な入院生活の中で、季節の移り変わりを少しでも感じてもらいたく、旬の食材を使用した「行事食」で、日々の食事に変化を持たせています。

7月7日の七夕の日には、天の川に見立てた冷やしそうめんの上に星型の卵豆腐や人参を散らした食事であったり、お誕生日の患者さんのお食事には、ちよつとしたメッセージを書いたバスデーカードを添えたりしています。

7月の下旬に、初めての昼食バイキングを行いました。食堂のテーブルには小花が飾られ、いつもとは違うわいわいがやがやという雰囲気の中でバイキングは始まりました。準備されたメニュー(主食:4種類、メイ



ンのおかず:3種類、小鉢:4種類、汁物とデザート:各2種類)の中から、好きなものを選んで、召し上がっていただく方式です。料理を舌だけで味わうのではなく、目・鼻・耳などすべての感覚を使って楽しく食べることが、美味しい食事への大切な要素ではないでしょうか。

患者さんが元気になるような美味しい食事を提供できるように、職員一同努力していきたいと思えます。来年の夏にも昼食バイキングを開催する予定です。ご期待ください。

## 恒例 夏祭り開催

日時 7月30日(土) 13:50~15:30  
場所 4階ラウンジ

セミの音が降り注ぐ夏の屋下がりには、恒例の「夏祭り」を開催しました。職員による神輿かつぎ、ボランティアによる演奏会、大正琴&ケーナ、くじ引きなど、楽しい一時を過ごすことができました。夏の暑さもしばし忘れることができたのではないのでしょうか。



## 理念 誠意・信頼・安心

- 1. 患者さんの意志と権利を尊重した医療の提供
- 2. 患者さんと医療情報を共有し、患者さん本位の誠実な医療の推進
- 3. 質の高い医療を提供するために職員の教育・設備の安全・保守管理の徹底
- 4. 患者さんが継続して、一貫した受診が出来るよう地域医療機関との緊密な連携